

記入例

氏名・生年月日を記入。

[数を採用する]

項目	介助なし	一部介助	全介助	結果/特記事項
① 食事	具体例	・食べ物に特別な配慮をすることがある。 →軟食、きざみ、ミキサー食、流動食、経管栄養（経口・胃ろう）、中心静脈栄養、宗教食、過度な食物アレルギー、特別なアレルギーなど配慮がある場合。 ・一度に口に詰め込まない、口の中での配慮が必要。 ・食事の指導をしている。 ・食事のサポートを行っている場合。 ・食事の特性のものであったり、また道具を使って食べる必要がある（例えば、箸の握りが極端に少ない等）。 ・食事のこだわり等）により配慮が必要。		食事を丸飲みしてしまうため、声掛けが必要。
② 排せつ	具体例	・立ち便器、和式便器等、トイレの形状によって排せつが困難な場合。 ・トイレトレーニングのために、排泄時間の記録、定時の排泄を促している。 ・大人の手を必要とする。 ・排泄の回数が多い。 ・排泄の場所が狭い。 ・排泄の回数が多い。 ・排泄の場所が狭い。 ・排泄の回数が多い。 ・排泄の場所が狭い。	・頻尿で何回もトイレに行く。 ・尿意等を自分から訴える。 ・便意を我慢して排泄する場所ではない所で排泄する。 ・頻尿で何回もトイレに行く。 ・尿意等を自分から訴える。 ・便意を我慢して排泄する場所ではない所で排泄する。	結果/特記事項に具体的な状況（必要な支援）を記入してください。
③ 入浴	具体例	・感覚過敏があり、洗髪や洗顔、洗身に拒否を示すため、対応が必要。 ・石鹸やシャンプー、タオルなどにこだわりがあり、配慮が必要。 ・入浴する際に常に動いていて、見守り等の配慮が必要。	・シャワーベット等の器具を使用して、入浴している場合。	「介助なし」の場合は記入不要。
④ 移動	具体例	・階段や未舗装道路（砂利道等）等の条件によって介助が必要になることがある。 ・歩行速度が他児と異なる（速い/遅い）ため、個別の対応が必要。 ・道順や手段にこだわりがある。 ・感覚過敏等があり、外履きや靴下などに配慮が必要。 ・公共交通機関ではパニックになりやすく、利用できない。 ・移動が安定せず途中で立ち止まったり、座り込んだり、寝転んだりするため対応が必要。	・常時手をつなぐ状態や、常時抱っこ等で移動が必要な状態。 ・抱っこをして移動するが、首の座りや体幹が弱く抱っこに配慮が必要である。 ・常時バギーや車イス、お散歩カートなど移動用が必要となる場合。 ・道路への飛び出しがあり、信号を理解できない、障害物の回避が出来ないなどの理由で見守りが必要。 ・装具などを装着しているため、移動する際に配慮が必要。	

項目		0点	1点	2点	
⑬ そう う つ 状 態	具体例	支援不要	支援が必要な場合がある（※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	常に支援が必要（通常または習慣化している 例：週1回程度以上）	結果/特記事項
			○うつに関連する行動 ・前後の脈絡なく急に泣いたり、笑ったりする。 ・日常の活動への興味や意欲が感じられない。 ・自殺企図がある。 ・気分安定剤などの薬物を使用している。 ・睡眠に課題がありリズムが崩れやすく、睡眠が安定しない、まとまった睡眠がとれない。（例：入眠できない、夜中に何度も目を覚ます、昼夜逆転等） ・睡眠障害に関する診断や治療をしている。 ○そうに関連する行動 ・気分の高揚 ・社交性の増大 ・多動・多弁 ・過度な興奮状態 ・怒りやすい		
⑭ 反 復 的 行 動	具体例	支援不要	支援が必要な場合がある（※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	常に支援が必要（通常または習慣化している 例：週1回程度以上）	結果/特記事項
			・物や行為にこだわり特定の行為を反復する（例：言葉やTVのフレーズを繰り返し話す、機械類をずっと見ていたり、気になると時や場所を選ばず寄って行ってしまふ、特定の玩具でしか遊ばない。） ・スケジュールや物の置く位置などが変わると混乱し元に戻すように求めたり、戸の開閉を過度に気にしきちんと閉まっていなくてパニックを起こすため配慮が必要。 ・自分の気になることを、何度も聞き返す。 ・くるくる回るものやキラキラするものに集中し、動けなくなることがある。 ・回る物や紐などを常に持ち、それらを常に動かしている。 ・上半身を前後に揺らす、ジャンプを繰り返すなどがあり、時と場所に応じて配慮している。 ・日常生活の中で、決まったルーティン（例：服を着る順番が決まっているなど）を行わないと次の行動にうつれない。 ・日常生活の中で、決まった道以外を通るとパニックになる。		
⑮ 対 人 面 の 不 安 緊 張 ・ 集 団 へ の 不 適 応	具体例	支援不要	支援が必要な場合がある（※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	常に支援が必要（通常または習慣化している 例：週1回程度以上）	結果/特記事項
			・一定期間学校へ行けなかったり、事業所の中に入れなかったり、家に引きこもっている状態。 ・全くもしくは短時間しか集団参加できず個別に対応が必要。 ・新しい場所など慣れない場所に行くと動けなくなり、会話ができなくなる。 ・不安緊張が高まるとその場にいらなくなる、もしくはその場で動けなくなってしまう。 ・アイコンタクトが乏しく（話しているときや話しかけられているときに相手の顔を見ない）配慮を必要としている。 ・チック（目をパチパチさせたり、「オッ」など意図しないで声が出てしまうなど）など身体症状にあらわれている場合。 ・爪かみ、指しゃぶりがあふ。・緘黙がある。 ・ファンタジーの世界に入ってしまう、やりとりが成立しない。 ・感覚過敏により日常生活への適応に困難があるため配慮が必要。（例：温度、食感、音が過剰に聞こえる、つま先立ちで歩く、光や色を過剰に感じる、皮膚感覚が過敏で同じ服しか着ることができないなど）		
⑯ 読 み 書 き	具体例	支援不要	支援が必要な場合がある	常に支援が必要	結果/特記事項
			・一部理解はできるが、見守りや口頭で補足の説明が必要。 ・書くことはできないが、パソコン等の代用手段を使用できない場合	・文字では理解できず、コミュニケーションツールを使用することで理解できる。 ・文字に興味を示さない。・学習障害の診断がある。 ・外国語でのコミュニケーションが必要なために、翻訳	

事業所名・担当者名を記入

※保護者の方が作成する場合は記入不要

記入不要

点

記載内容について説明を行いました。

事業所名

保護者の方が署名してください。

記載内容について同意します。

保護者署名

聴取日